

船井情報科学振興財団留学報告書

Department of Economics, Northwestern University

村上愛

今年はいよいよ博士論文を仕上げ、就職活動を行うことになりました。今回のレポートでは、経済学の分野では学術的なポスト（ほとんどの場合 Assistant Professor）に応募するにあたり就活の手順がかなりの部分システムチックに決まっているので、どのようなものなのかご紹介したいと思います。

まず、博士論文として論文を1本用意します。これが Job Market Paper（通称 JMP）と呼ばれるものです。通常は単著であることが望ましいとされています。分野や内容によっては他の博士課程の学生との共同研究でもよいと言われていますが指導教官との共同研究は避けたほうがよいとされています。

博士論文は7月から9月ごろまでに書き上げることが推奨されています。9月以降は、研究発表のために用意するスライドの発表練習やインタビューの練習を中心に行うことが予定されています。Northwestern University の場合、経済学部プログラムとして、同期と共に互いの発表を評価したり、ランダムに割り当てられた教員と面接の練習を行うことがイベントとして複数回予定されています。

10月になると、応募先を決め、必要書類を用意する必要があります。経済学の場合、1人あたり、200校から300校応募すると言われていています。特に住みたい国や住みたくない国がない限り、世界中の大学に応募書類を送ります。経済学の学術ポスト専用のウェブシステムが存在し、システム上でポチ、ポチと選ぶことによって応募することが可能です。必要書類も基本的にはシステムにアップロードすることで送付することができます。

11月以降になると、書類審査を通過した大学との最初の面接が入ると言われています。15分間で自分の研究を紹介し、質問に答える必要があります。コロナ以降、Zoomで行われることが多くなったと言われています。

アメリカの多くの大学は、2024年1月5-7日に開かれる American Economic Association の Annual Meeting に合わせて、同期間に面接を行います。

その後、面接を通過した場合はセミナーに呼ばれます（通称 fly out）。パンデミックが収束したので、これは対面で行われることが多く、実際に現地の大学に行くことになります。1日かけて、所属している教員と朝から面接を続け、午後に博士論文を90

分かけて発表し、夕食時も、カジュアルな形で面接が続くと言われています。

このセミナーの後、オファーがくれば2月上旬ごろに就活が終わることになります。

3月頃までに就職先が決まっていなかった場合、様々な選択肢が考えられます。1つ目はポストドクです。ポストドクのポジションは上記のようなシステムではでていないので、教員や自分の伝手で探してくることになります。次に、日本の大学のポジションです。日本の大学の多くはアメリカやヨーロッパと異なって個別に応募する必要があるため、システムでカバーされていません。3つ目に、民間就職も考えられます。Northwestern Universityで経済学のPh.D.を取得した人の場合、UberやAmazonといった企業への就職も毎年みられます。（無職で卒業する人はここ数年いませんでした。）

数百の応募の結果、どこの国で働くことになるのか全くわからない、という面白い仕組みではありますが、それを楽しみにしている人も多いように思います。1年後どこで仕事を得ているのか、私自身楽しみでなりません。まずは、博士論文の完成まで大詰めの段階まで来ているので、予定通りに仕上げるのを頑張りたいと思います。（内容については次回の報告書で完成版をお伝えできればと思います。）